

## 飢餓のない世界

マハ マット マンスール アフ デル アジズ

カメルーンのコロコでは、時計が6時を打ち鳴らすのは、新しい日が始まる合図となる。

心に希望を抱いた8歳のアミナタは、眠りから目覚める。8分の旅をして、最寄りの井戸

にたどり着き、必要な水を汲む。それからさ

わやかなシャワーを浴びる。母と温かい挨拶

を交わした後、彼女は学校に向かい、本でい

っぱいのバッグを持ち、夢でいっぱいの頭で

歩く。しかし、家族の限られた収入では、食

品価格の高騰のために1日2食以下に制限し

なければならず、彼女のおなかは不満にうな

む。それでもこの困難にもかかわらず、アミ

ナタは輝く笑顔を浮かべ、教育を受ける特権

を認識している。今日は特別に母が彼女にい

くらかの余分なお金を与え、2週のエルを買

うことが出来るようにした。きつと楽しい日

になることを約束している。

残念なアミナタの日常のルーティンは、  
わめルーティンの5分の3以上の子供の生活の現  
実を反映しており、私自身も経験していた。  
地球温暖化の深刻な影響と何十年にも及ぶ紛  
争が、この悲惨な統計を日増しに悪化させ続  
けている。アミナタのような子供達の苦境を  
考えると、私は基本的な問いに思いを巡らせ  
る。私達には広大な農地と膨大な潜在能力が  
あるにもかかわらず、なぜ食糧が不足してい  
るのだろうか？ なぜアミナタや無数の他の  
子供達は空腹のままに学校に通い、授業に集  
中しなければならぬのだろうか？ どこで  
間違えたのだろうか？ 真実を求めて、私は  
その答えを探す旅に出た。  
まずアミナタの母親ニナに話を聞いてみた。  
ニナは家族と友人から借りたお金で路上でマ  
カラと豆の商売を始めた。彼女のマカラは人  
気で、心を込めて作っているためその味はお  
客にすぐに分かるほどだ。子供達も手伝って  
くれているので、1日あたり約6千円を稼い

ことができる。

ニナは自分のマカラを作るために小麦粉が  
必要だ。しかし、そのほとんどが輸入品であ  
りウクライナの戦争以来、価格が倍増してい  
る。ほとんどの客が学生や低所得の労働者な  
ので、ニナはマカラの価格を上げることがで  
きない。そのため彼女はジレンマに直面して  
いる。価格を維持するか、品質を下げるかだ。  
どちらにしても彼女は損失を被ることになる。

カメルーンの都市では、多くの人が非正規  
雇用89%で働いており、安定した収入がない。  
このため、長期的な投資や生活水準の向上は  
ほとんど不可能になっている。彼らにとって  
最善の選択肢は、子供を学校に通わせ、彼ら  
の将来をより良いものにすることだ。

地元の市場を歩いて他の売り手と話をする  
ことにした。ニナと同じような状況に置かれ  
ている人が数多くいるのを知って驚いた。輸  
入品は安く豊富なので、地元産品が飽和し  
た市場で生き残るのは難しい。実際にカメル

ーンでは基本的な食品の30%以上が輸入品で  
グローバル市場の変動に非常に敏感な状況に  
あるということだ。例えば、2013年度の中央  
アフリカ紛争で亡くなった人の75%以上は銃や  
刃物で殺されたわけではない。彼らは食料にア  
クセスできなかつたために飢餓で亡くなった。  
では、なぜこのようなことが起こるのだら  
うか？ カメルーンの農業生産はどうなのだ  
らうか？ 答えを求めて農場を訪れることにし  
た。  
7時間のドライブの後、大農村部のルムに  
到着した。最初に目についたのは、道路の状  
態だった。この地域は熱帯気候であり、雨が  
豊富で頻繁に洪水や土砂崩れが発生するから、  
極めて危ない。毎月多くの事故で死者が出る。  
ルムでは代々豆農業を営んでいる農家、オ  
ビに話を聞いた。彼は道路の劣悪な状態が食  
品を市場へ運ぶのを非常に困難にしていると  
語ってくれた。彼によると、彼の経費の75%  
以上が輸送費に充てられており収穫物の半分  
以上が市場に到着する前に腐ってしまうこと

がよくあるとのことだ。

オビはまた最近、降水量の減少と長期化する乾季により不作がより頻繁に起こっていると話した。彼は気候が変わっていると言いき、農家の人々が適応に苦勞していると言った。

私はその日農園を歩き回りながら農家の人々と話をした。彼らの働きぶりに感動した。

朝6時に一斉に歌を歌いながら畑に向かい始め、昼食のために戻る以外は一日中働いている。彼らは強靱な人々であり、土地から生計を立てようと決意している。彼らを信じたい。

旅の終わりに私は初めての予想を超えるこの問題の複雑さを理解することができた。しかし、飢餓のない世界の大切な手がかりを得た

ことを感じた。もちろん私には輸入品依存や

→ 交通システムを改善する専門知識はない。し

かし、機械工学のエンジニアとして、農業部

門を効率化する方法に焦点を当てて研究する

ことに決めた。具体的には、機械化し、太陽

光や風力などの地元のエネルギー源を利用す

る機械の発明と導入だ。私の希望は、農民の  
仕事を軽減し、子供達が仕事の手伝いよりも  
精一杯で学校に通って将来農業セクターを改  
善させることだ。これによって、飢餓との闘  
いに一歩前進する手伝いができれば願っている。